

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.1041
2025.5.18

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
ご意見・ご要望はこちらにお寄せください

松村	としお	とば	めぐみ
久保	みき	たけこし	連
金子	あきよ	池田	めぐみ

地下鉄 7 号線延伸を考える 今必要なのは 身近な公共交通網の充実

地下鉄 7 号線（埼玉高速鉄道）を浦和美園駅から岩槻駅まで約 7 km 伸ばす計画があります。30 年以内に採算が取れる見通しがあれば国の補助を受けることができ、さいたま市はこの計画を進めていますが、具体化するほどに課題が大きくなっています。

一つは建設費です。当初は 860 億円としていましたが、昨年 1300 億円に増え、今年 2 月には 1390 億円と議会に報告されました。ただし、報告資料には「物価上昇 10% を仮定したケース」の欄がありながら、事業費の数字が書かれていませんでした。松村としお市議が「物価上昇 10% の場合はいくらか」確認したところ、「1520 億円」との答弁がありました。この場合、国・県・市で合計 1000 億円（延伸 1 m あたり約 1400 万円）の税金が投入されることになります。860 億円と試算していた 2021 年、松村市議の質問に副市長が「巨額のプロジェク」と答えた時点から倍近い事業費に膨れ上がっています。物価上昇・資材高騰が続く見通しのもと、さらに税金投入が増える可能性があります。

もう一つは浦和美園駅と岩槻駅の中間に計画している「中間駅のまちづくり」です。当初は



地下鉄 7 号線延伸について質問する
松村市議（2024 年 2 月議会）

4000 人規模の想定でしたが、2024 年 12 月議会で商業施設事業者から「まちの規模や採算性として、周辺人口 1 万人以上が理想」との声があったとし、そのまま計画に組み入れました。もちろん、まちの規模が大きくなれば地下鉄の乗降客数が増え、収益増加が見込めます。同時にまちづくりにかかる費用、すなわち税金投入も増えますが、事業費の概算すら示しません。

さらに、地下鉄を伸ばすための建設期間が 18 年から 14 年に短縮されたと報告されました。しかし、建設にはいる時期は不明確なため、完成がいつになるかは示されていません。

巨額の建設費用と市が想定する開通時期が 20 年近く先になることを考えれば、市全体を

進む「産業集積拠点」整備事業 その問題点は

これまで、さいたま市が市内の高速道路や幹線道路の沿線を中心に、工場、物流施設、研究開発施設などの企業誘致の「受け皿」とする「産業集積拠点」の整備事業を進めていることについてお知らせしてきました（市議団ニュース No.1024）。2018 年までに選定した候補地区のうち、①の浦和 IC 西側地区では、大型物流センターが建設され、今年 8 月からの稼働が予定されています（写真）。2024 年 11 月に、さらに⑦～⑩の 4 カ所の候補地が追加されました。担当する産業展開推進課は「企業の立地ニーズは非常に高く、切れ目なく整備を推進していく」として候補地を追加、10 カ所に増やしたと予算委員会で説明しています。これまでに市の予算を 4 億円もかけて調査などをおこないながら事業を進めており、企業誘致に前のめりです。

④の宮前地区については、3 月 18 日の都市計画審議会で、土地区画整理事業の変更などが決定されました。この審議会に委員として参加した金子あきよ市議は、都市計画法上の手続きとしておこなわれた公聴会、計画案縦覧に対する意見書のなかで、少なくない住民から懸念や計画に反対する意見が示されていたことから、近隣住民にとっての居住環境が企業活動によって甚大な影響を受ける可能



候補地	行政区
①浦和 IC 西側地区	緑区
②吉野原工業団地東側地区	北区
③川通地区	岩槻区
④首都高北伸・宮前地区	西区
⑤首都高北伸・清河寺北地区	西区
⑥田島地区	桜区
⑦丸ヶ崎地区	見沼区
⑧宮ヶ谷塔地区	見沼区
⑨笹久保地区	岩槻区
⑩国道 122 号延伸地区	岩槻区

性について指摘。計画変更には同意できないと態度表明しました。計画変更に賛成した他の委員からも「企業活動による住空間への影響を緩衝するしくみを考えるべきではないか」「緑地保全や住民意見の尊重に配慮した進め方をするべきだ」との発言がありました。

金子市議は「産業集積拠点整備は多くの場合、市の貴重な緑地、自然環境を犠牲にして進められる。地権者だけでなく、近隣住民に対する説明と合意形成が求められる。今後の事業の進捗に際して、住民にとっての不利益が生じないか、注視していきたい」と話しました。

対象にした多様な手段で交通網を充実させることを優先すべきです。コミュニティバスや乗り合いタクシー、デマンド交通、公共交通利用補

助制度（お出かけ応援制度）など、さまざまな手段で市民の移動を支えるために財政を振り向けることを党市議団は提案しています。

浦和区 本太坂下交差点が 数年後に閉じる?!

「本太坂下交差点が、数年後に閉じる」という情報をご存知でしょうか。現在、本太坂下交差点は6差路です。今後、国道463号道場三室線本太工区(新浦和橋から駒場運動公園交差点)が2車線から4車線になる際に、渋滞緩和のため、本太坂下交差点は閉じて、463号バイパスと旧463号の2本に分離するという案が市から公表されました。

沿道住民への説明会が3月に開催され、池田めぐみ市議が参加しました。市からは、7つ



本太坂下交差点の周辺図

ある信号が5つになること、防音壁は撤去すること、設計に2年、工事に7年かかり供用開始は2034年度以降になることなどが説明されました。説明会の参加者からは、目の前の

見沼区 危険な交差点に信号をつけて

見沼区大谷中学校通りのドラッグストア「セイムス」前の危険な交差点について、地域住民が最初に信号機設置を求めたのは2018年。2023年には「住みよい見沼区をつくる会」(以下、つくる会)がとばめぐみ市議とともに655筆の署名を埼玉県警に提出しました。県警は「設置条件5つのうち4つは満たしており、歩行者の横断待ちスペースが確保できれば設置可能」と回答し、市と用地確保を協議中でした。

ところが今年2月7日にこの交差点で、横断中の高齢女性が車にはねられ死亡する事故が発生。つくる会ととば市議は2月27日、「緊急に信号設置を求める要望書」をあらためて県警へ提出しました。懇談では事故への悲しみと怒り、交差点の危険性や住民の不安が語られました。県警は「用地買収を急ぐよう市に働きかけている」と回答しました。



さいたま市に署名を提出するつくる会のみなさんととば市議(左)

つくる会は市への緊急署名活動も開始。事故現場近くのスーパー前での署名活動には多くの買い物客が応じました。同時期、被害者の住んでいた自治会も同趣旨の署名にとりくみ、つくる会と合同で925筆を提出。市は「今年度中に用地買収、来年度に信号機設置の方向で予算を確保し、努力中」と回答しました。

なお、信号機設置までの安全対策として区画線の補修、ドット線追加が完了し、注意喚起の電柱幕準備が進められています。

信号機をなくさないでほしいという声や、本太小学校の通学への影響、家の出入りへの影響が心配されるという声、明らかに騒音や振動が増えるのに防音壁をなくすのはおかしいという意見もありました。

市の道路計画課からは、道場三室線の渋滞緩和のために信号を減らすこと、騒音については昼間63dBの騒音(現況測定値)が、4車線化しても将来的な予測値は69dBで、環境基本法の70dBよりも低いので防音壁は撤去すると説

健康福祉センター東楽園 ゆーぱる ひざこ OPEN

見沼区にある「老人福祉センター東楽園」は、健康維持・増進や生きがいづくりの場として、シニア世代を含むあらゆる世代が広く利用できる施設「ゆーぱる ひざこ(健康福祉センター東楽園)」として生まれ変わり、4月にオープンしました。落成式にはとばめぐみ、池田めぐみの両市議が参加しました。

「ゆーぱる ひざこ」は、「お湯の『ゆ』と遊ぶの『ゆう』をかけて、仲間『ぱる(Pal)』が仲よくつどう場所が、さいたま市見沼区膝子にできるという意味を込めた名称」だそうです。施設は、25m温水プール、フィットネスルーム、屋内運動場などの運動施設に加え、集会室

明されましたが、担当者に確認すると防音壁を設置する場所がないわけではない、とのことでした。渋滞緩和への期待の声がある一方、今後どのような影響がでるか、住民のみなさんのご不安やご意見を広くお聞きしながら、市議団としても対応していきます。

説明会資料



東楽園 HP より

や共用スペースも充実しており、地域サークルの活動や各種イベントにも利用可能です。健康づくりだけでなく、人と人をつなぐ交流の場としても期待されており、現地への無料バスは5ルート運行されています。

一方で、旧東楽園では無料だった高齢者の利用が有料となりました。さらに、お弁当や食料品の持ち込みが禁止となったことに対して、「レストランのみではなく持ち込みできるようにしてほしい」という声も寄せられています。

あなたの身近な市議会議員です



緑区
松村としお



桜区
久保 みき



南区
金子あきよ



見沼区
とばめぐみ



中央区
たけこし連



浦和区
池田めぐみ